

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年8月12日

BMJ:入院治療を受けた高齢者の長期的死亡リスクと再入院リスク：後顧的コホート調査

8月第一週 札幌下水サーベイランス結果

## 【松崎雑感】

アメリカでは障害を持つ人々と65才以上の人々を対象とした医療費補助制度「メディケア」があります。連邦予算の2割近くが支出されています。低所得者層を対象とした社会的セーフティネットです。そのくくりで新型コロナとインフルエンザのどちらが死亡リスクが高いかという調査ですが、最近のデータでは、新型コロナの方がインフルエンザより2倍死亡率が高いという結果でした。

# 入院治療を受けた高齢者の長期的死亡リスクと再入院リスク：後顧的コホート調査

Oseran AS, Song Y, Xu J, et al. Long term risk of death and readmission after hospital admission with covid-19 among older adults: retrospective cohort study. *BMJ*. 2023;382:e076222. Published 2023 Aug 9. doi:10.1136/bmj-2023-076222

## 目的

新型コロナで入院したメディケア受給者の長期的死亡リスクと再入院リスクを明らかにし、インフルエンザ入院との比較を行う。

## 方法

米国における後顧的コホート調査。2020年3月1日から2022年8月31日の間に、新型コロナ感染で入院し、生存退院した65才以上のメディケア受給者883,394名と、2018年3月1日から2019年8月31日の間にインフルエンザで入院した56,409名について、再入院と長期的死亡率を比較した。解析の主要指標は、退院から180日以内の全死亡率。二次的指標は、再入院リスクおよび180日以内の死亡あるいは再入院リスク。

## 結果

コロナコホートはインフルエンザコホートより若く(77.9才 対78.9才)、女性の比率が少なかった(51.7% 対57.3%)。黒人およびメディケア受給者の比率は同じだった。コロナコホートは心房細動、心不全、COPDなどの合併症が有意に少なかった(24.3%対29.5%、43.4% 対 49.9%、39.2% 対52.9%)。諸因子調整後、コロナコホートは、インフルエンザコホートよりも、有意に退院30日後の全死亡リスクが高かった(10.9% 対3.9%)。退院180日後の全死亡リスクも同様だった(19.1% 対 10.5%)。コロナコホートは、インフルエンザコホートよりも退院から30日および90日の時点での再入院リスクが有意に高かった(それぞれ、16.0% 対11.2%、24.1% 対21.3%)。180日の時点での再入院リスクの差は見られなかった。退院から30日以内の死亡リスクは、パンデミック当初は17.9%だったが、2022年8月の時点では7.2%に減少していた。

## 結論

新型コロナあるいはインフルエンザ感染により入院したメディケア受給者の退院後の死亡リスクを比較すると、新型コロナの方が有意に高いことが分かった。ただし、その差はパンデミック初期において特に著明だったが、2022年夏にかけては減少した。

# 8月第一週でも、新型コロナ流行は高止まり

## [下水サーベイランス／札幌市 \(city.sapporo.jp\)](http://city.sapporo.jp)

### 下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）

